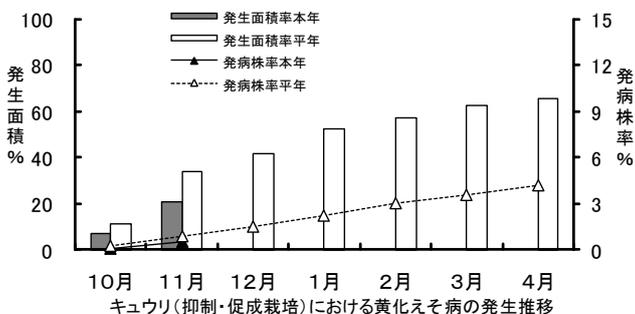


平成26年12月5日

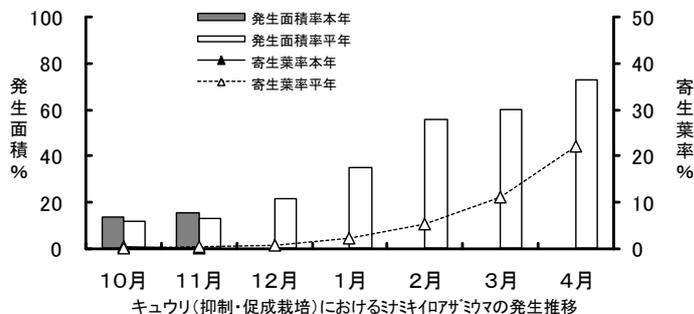
高知県病害虫発生予察11月月報及び予報第9号(12月)
野菜類ダイジェスト版

● 抑制・促成キュウリ(中央部・中西部・西部)

黄化えそ病 発生量: やや少

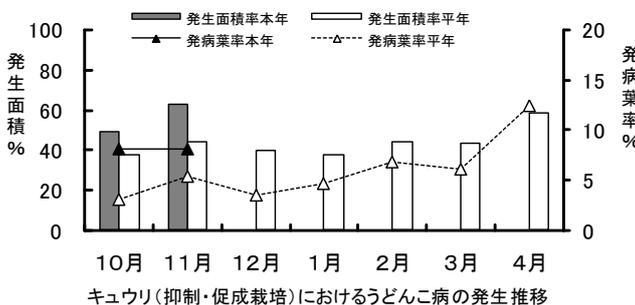


ミナミキイロアザミウマ 発生量: 平年並

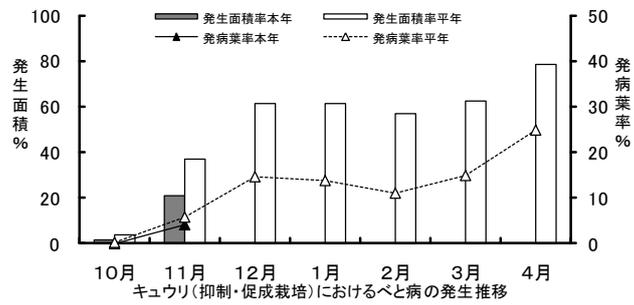


黄化えそ病の発生は県中央部では平年並の発生が見られましたが、中西部と西部では少発生でした。媒介虫のミナミキイロアザミウマは県中央部でやや多発生、中西部と西部では少～やや少発生で、全体的には平年並の発生です。発病株は伝染源となることから早期除去に努め、媒介虫の防除も徹底してください。キュウリ生長点部に寄生するミナミキイロアザミウマは発見が困難で、薬剤もかかりにくく、密度が高くなると防除が難しくなることから、初期防除を心がけてください。

うどんこ病 発生量: やや多

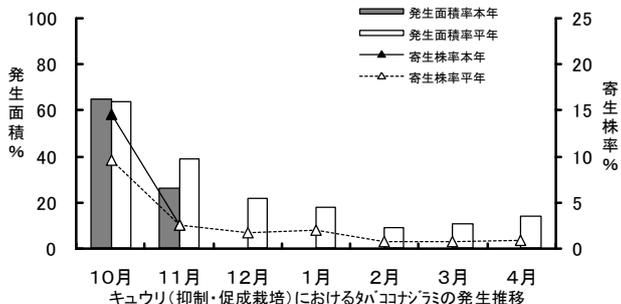


べと病 発生量: 少

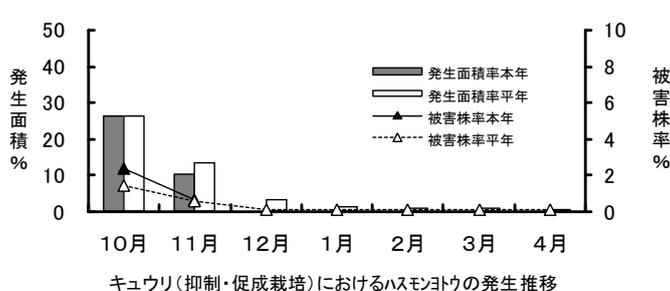


うどんこ病は県中央部で多発生、中西部では少、西部でやや多発生となっています。べと病は中央部でやや少、中西部で少、西部では平年並の発生となっています。うどんこ病、べと病ともに蔓延すると、薬剤散布による防除は困難となりますので、早めに発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

タバココナジラミ 発生量: やや少



ハスモンヨトウ 発生量: やや少



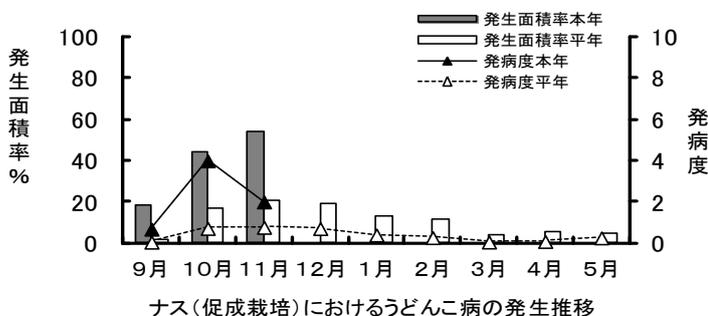
タバココナジラミは県中西部でやや多発生ですが、全般的にはやや少発生となっています。ハスモンヨトウは中央部と西部では平年並、中西部では少発生となっています。どちらも気温の低下とともに発生量は減少しますが、薬剤散布回数の少ない場合は春先に急激な増加が見られる場合があるので注意してください。

平成26年12月5日

高知県病害虫発生予察11月月報及び予報第9号(12月)
野菜類ダイジェスト版

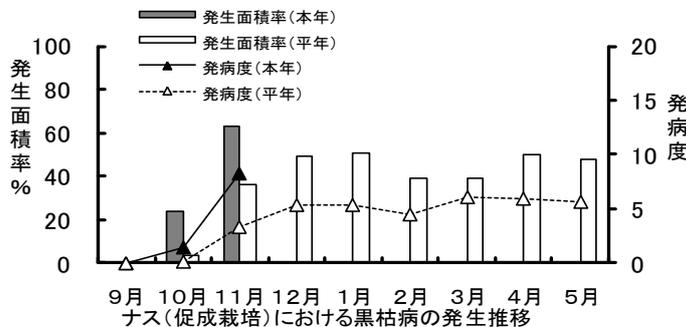
● 促成ナス(東部・中央部・西部)

うどんこ病 発生量:多



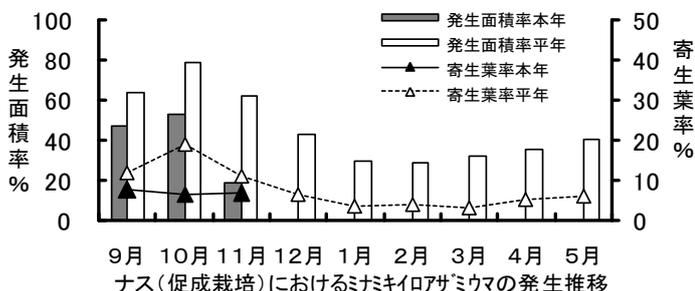
県東部で多発生、中央部で並の発生となっています。多くは、下葉に散見される程度の発生ですが、一部では程度の高い発生も見られます。温湿度管理、草勢管理を適正に行い、発病を認めた場合には初期から薬剤防除を行いましょう。

黒枯病 発生量:多



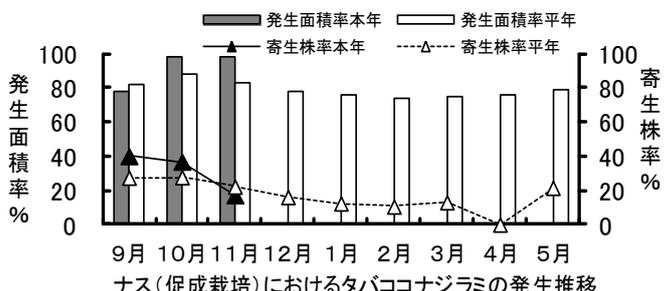
先月に続き、県東部、中央部で多発生、西部は平年並の発生でした。発生程度も高くなってきており、気象予報では降水量が多めで推移する予想で、発病の増加が考えられます。定期的な予防散布に努め、発病の初期を見逃さないように注意しましょう。

ミナキイロアザミウマ 発生量:少

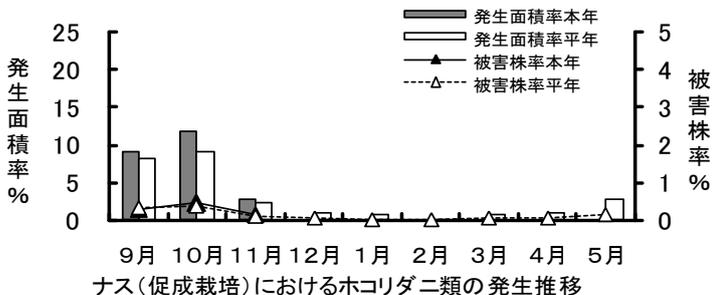


ミナキイロアザミウマは、天敵の定着・増加により、県全体に少発生となり、先月から大幅に減少しています。タバココナジラミは、ほとんどの調査ほ場で発生が見られており、県東部で多発生です。特に天敵導入ハウスでは、天敵の定着・増加と気温の低下により、両種の密度はさらに低下すると思いますが、現在発生が多めのほ場は、今後の発生動向に注意し、密度が高くなった場合は、微生物製剤や選択性殺虫剤等での防除が必要になると思われます。

タバココナジラミ 発生量:平年並

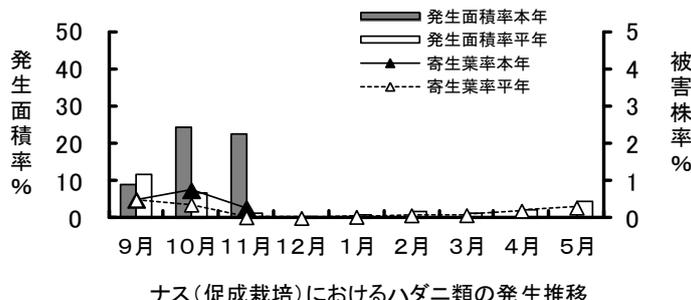


ホコリダニ類 発生量:平年並



巡回調査では、県中央部、西部で多発生、県東部は少発生でした。薬剤散布により発生は減少傾向にあります。既発ほ場ではよく発生状況を観察してください。多発すると防除が困難になるので、発生初期をとらえて防除するように心がけてください。

ハダニ類 発生量:多



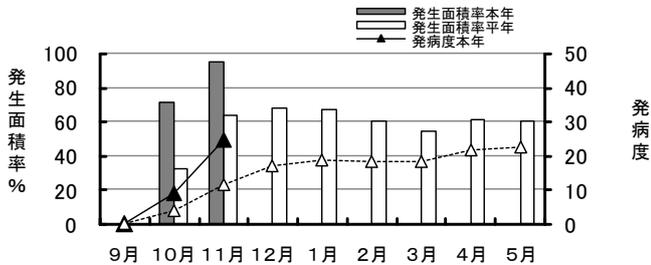
県東部では多発生、中央部で多発生、中央部～西部では並～少発生となっています。今後も発生状況をよく観察し、初期防除に努めてください。天敵導入ハウスでは薬剤の選定に留意してください。

平成26年12月5日

高知県病害虫発生予察11月月報及び予報第9号(12月)
野菜類ダイジェスト版

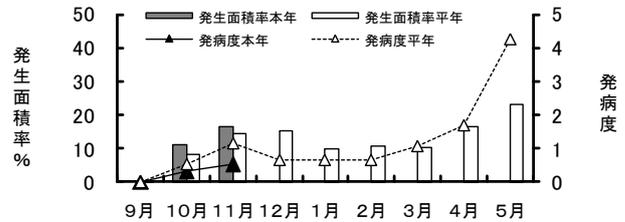
● 促成ピーマン(東部・中央部・中西部)

うどんこ病 発生量: やや多



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

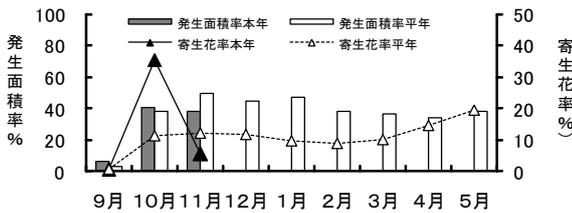
黒枯病 発生量: 平年並



ピーマン・シトウ(促成栽培)における黒枯病の発生推移

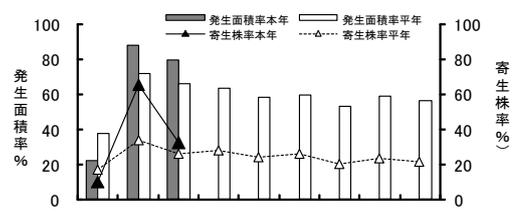
うどんこ病は県東部では平年並ですが、中央部と中西部で多発傾向となっています。一方、黒枯病は東部で多発生、中央部では平年並、中西部では少発生となっています。向こう1ヶ月の気象予報では、降水量はやや多く、気温は若干高いと予想されています。両病害とも蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。散布の際は下葉や葉裏へのかけ残しのないように丁寧に散布してください。

ミナミキイロアザミウマ 発生量: やや少



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

タバココナジラミ 発生量: 平年並

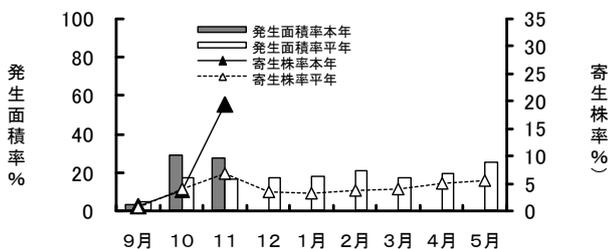


ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

県東部では平年並、中央部と中西部では少発生となっています。天敵の定着の悪い場合には、初期防除を徹底するとともに、薬剤のローテーションを行い抵抗性の発達を回避してください。

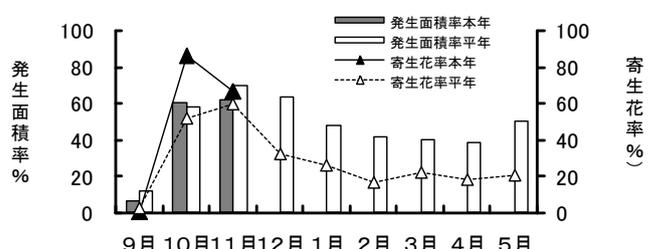
各地区ともに平年並みからやや少発生となっています。スワルスキーカブリダニの定着状況にもよりますが、成虫のみが見られる場合には、特に問題とはならないと思われ、天敵のエサとなっていると考えられます。

アブラムシ類 発生量: やや多



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるアブラムシ類の発生推移

ヒラズハナアザミウマ 発生量: 平年並



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるヒラズハナアザミウマの発生推移

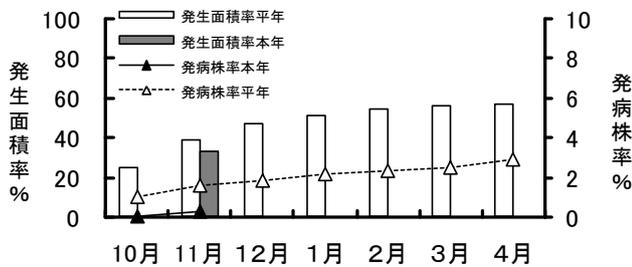
アブラムシ類は県東部と中央部ではやや多、中西部では多発生と、全般に多発傾向となっています。長期間発生の見られるハウスでは、虫媒伝染性のウイルス病の発生に注意してください。ヒラズハナアザミウマは東部ではやや少、中央部と中西部では平年並の発生となっています。いずれも密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。天敵導入ハウスでは、天敵の定着までは薬剤の散布は極力控え、散布する場合は影響の少ない農薬を選定しましょう。

平成26年12月5日

高知県病害虫発生予察11月月報及び予報第9号(12月) 野菜類ダイジェスト版

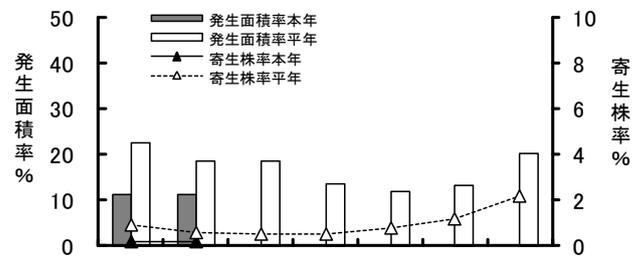
● 促成トマト(中央部)

トマト黄化葉巻病(TYLCV) 発生量: 平年並



トマト(促成栽培)における黄化葉巻病の発生推移

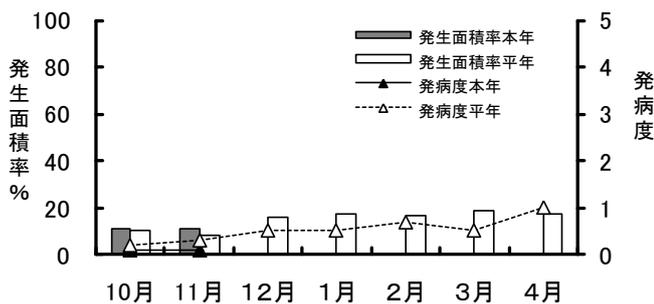
タバココナジラミ 発生量: やや少



トマト(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

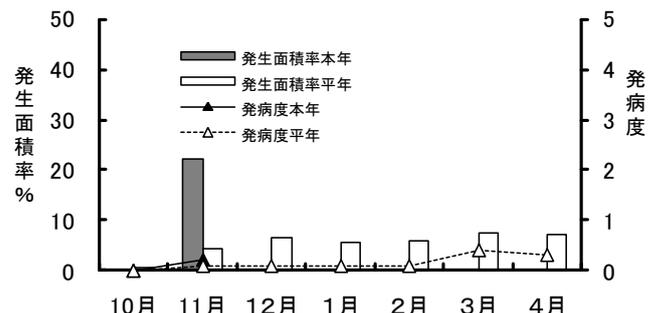
トマト黄化葉巻病の媒介虫であるタバココナジラミの発生はやや少発生となっており、巡回圃場での黄色粘着板に誘殺された成虫も少なかった。トマト黄化葉巻病の発生は平年並となっています。発病株は感染源になりますので可能な限り除去し、タバココナジラミが発生している場合は防除しましょう。また、併せて粘着資材等による物理的防除も実施しましょう。

すすかび病 発生量: 平年並



トマト(促成栽培)におけるすすかび病の発生推移

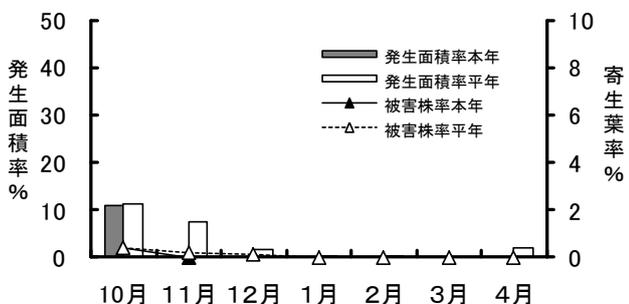
うどんこ病 発生量: 多



トマト(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

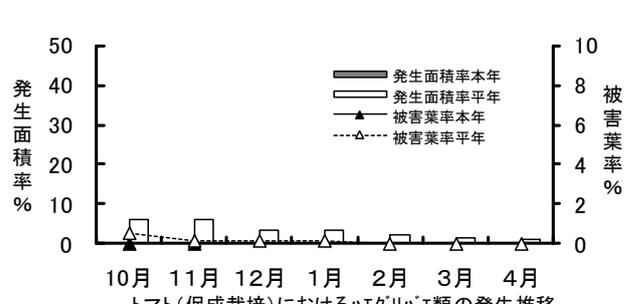
すすかび病が一部のほ場で発生しています。うどんこ病については平年がほとんど発生が見られないため、多発生の評価となっていますが、程度は高くはありません。今後の予報では降水量がやや多く、天候によりすすかび病が急に拡大することがあるので注意してください。

ハスモンヨトウ 発生量: 少



トマト(促成栽培)におけるハスモンヨトウの発生推移

ハモグリバエ類 発生量: 少



トマト(促成栽培)におけるハモグリバエ類の発生推移

ハスモンヨトウは先月より減少し、少発生となりました。効果的な薬剤散布が行われなかった場合には厳寒期もハウス内で世代交代が行われ、春先に増加が見られる場合があるので注意してください。ハモグリバエについてはほとんど発生は見られていません。